

仙人通信 96 中山(2496 m) にゅう(2352 m)

台風 9 号が九州に接近しているが、関東甲信地区は猛暑で 1 日天気は持ちそうだ。

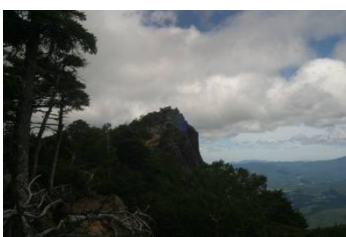
八ヶ岳の中央にある丸山 中山 にゅう 白駒池を麦草峠から廻る 5 時間のコースとした。

国道沿いの駐車場は、バス等で使用できず、隣の麦草ヒュッテにお願いしてのスタートである。

登山口には麦草(ノガリヤス)の中にコケモモの赤い実や薊・ヤマハハコ・トリカブト・リンドウが、そして鹿防柵を過ぎると、シラタマノキ・アキノキリンソウが咲き、秋を手招きしている。

今日のコースは、コメツガ・シラビソ等の樹林帯が主体である。甲斐駒から八ヶ岳にかけて、大きなレンズ雲が沢山浮かび、南八の上には雲がドカット居座っている様子が高速から覗える。丸山への登りでも変わらずに、時折ガスが目の前を走る。せめてにゅうの山頂までは雨が落ちないと祈るばかりだ。頭上では風の呼吸に合わせて轟音が鳴り響き・木々の擦れ合うギーギー音が止まない。山頂から 20 m ほどにある三等三角点に 50 分で到着した。山頂からの展望は“ 0 ”だ。10 分ほど下って、ぬかるみを過ぎ、渋の湯からのコースと合流して高見石小屋の裏手に出る。渋の湯から高見石を經由して南・北八ヶ岳に縦走した 45 年前を思い出す。小屋の横からゴツの上に立つと白駒池が緑に埋もれて光っているも、垂れこめたガスで遠くは望めない。中山へ向かう南面では石楠花やイワカガミの葉が、北面の日の当たる所では、ゴゼンタチバナの赤い実やスギゴケが日の光を受けて綺麗だ。高見石から 80 分ほどでハイマツとゴツの中山の展望台に出る。縄文時代の黒曜石で有名なツベタヤマ(冷山)は強風に霧が舞う。コースは大きく左に曲がり、樹林帯に入り 100 m ほどで、中山の山頂だ。更に 10 分ほど下った地点がにゅうと中山峠の分岐の道標だ。ここからは、にゅうと稲子岳との間にある 100 m 以上もある断崖の上を進むことになる。稲子岳・天狗岳・硫黄岳の東面が西暦 8 8 8 年に水蒸気爆発を起こし、火砕流が発生して、その先端は大月川と千曲川の合流点まで達し、松原湖・大月湖を初めとする幾つもの湖を作ったとある。実は稲子岳の南面はこの水蒸気爆発で 250 m 近い崖を形成し、成層火山岩が重力的に耐えられずにズレて現在の 2 重山稜を作ったとの定説である。幅 250 長さ 900 m もある凹地は近くで 1 度見たかった地形だ。途中の林の間からは、山頂を雲に隠した硫黄・天狗の爆発の断崖やこの凹地を観察する事ができた。緩やかな下りの露地ではアキノキリンソウやイワカガミの葉が綺麗である。40 分ほど下り小さなコルを越すとにゅうがひょこっと山頂を見せる。周囲をハイマツとダケカンバが覆い、南面を削り落したゴツの山頂は、数人しか立てないほどの三等三角点である。偶然にも雲が風で飛び、360°の展望が開けた。南には富士山・五丈岩の金峰・瑞垣や飯盛山・御座山そして浅間の山々・眼の下には白駒池・丸山や中山・二つの天狗・硫黄岳そして大月川沿いの湖と裾を引く大地は最高だ。風景を堪能してから、木の幹に捲かれたテープを便りに、15 分ほど下がると稲子の湯と白駒池の道標が現れる。更に原生林の中を黙々と 30 分ほど下ると、稲子の湯への道標がある。緩やかな下りとなり、15 分ほどで木道が現れ白駒湿原だがこの時期、花は無いようだ。更に 10 分ほどで湖面が木々の間から光る白駒池だ。左にコースを取り白駒荘の前を通り、国道沿いの駐車場方面へ進む。やがて麦草峠への道標である。ゴツで出来た白駒奥庭ではハイマツ・ゴゼンタチバナやコケモモの赤い実とコケモモの花もある。見惚れていると、岩の間からオコジョが愛くるしい目でじっとこちらを見ているではないか、小生に 50cm 程度まで近づいて来る。リックを放り出しカメラを握る。やがて林の中のコースとなり、麦草ヒュッテである。最後にオコジョがくれた温もりを抱きながらの帰路となりました。(h22 . 9 . 7)

にゅうの山頂



にゅうからの白駒池



オコジョ

